

かみねっちょ新聞

令和2年 11月号

～あなたの知らない飼育員の世界～

♪「ハッピーバースデーミネコ～」♪

先日、ゾウの「ミネコ」の39才の誕生会が行われました。そして12月には相棒「スズコ」の40回目の誕生日がやってきます。

ゾウの寿命は約60年といわれ、ほかの動物たちから比べると長生きします。ちなみに、モルモット5～6年、ライオン・キリン20年、ニホンザル30年、カバ40年、チンパンジー50年、ゾウガメ150年以上。

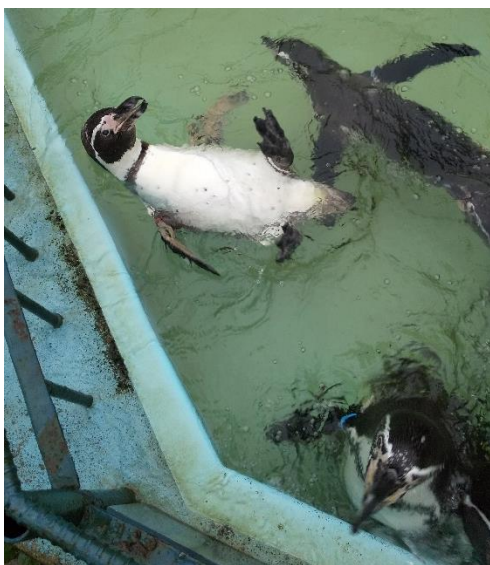
(もちろん、短命もいれば長命もいます)



「ミネコ、おめでとう」

私ごとになりますが、勤めはじめた1988年(32年前)の当初からいる先輩動物は、ゾウの「スズコ、ミネコ」、チンパンジーの「ゴヒチ」、フラミンゴたちだけになっています。動物の入手方法は、野生から捕まえてくる(現在はほぼ不可能)、他動物園との協力や動物業者からの購入、もしくは自園での繁殖になります。

現担当のペンギンの話



「がんばれ、あーちゃん」

1日2回のもぐもぐタイムの時間になると、ペンギンたちはエサを求めて元気に泳ぎ回ります。

その中に、1羽だけ私の足元で熱い視線を送る「あーちゃん(30才)」がいます。

高齢のため、バランス感覚や視力が低下して、他のペンギンたちのエサを取るスピードについていけないため、直にもらう方法を選択しています。

見ているお客さんからは「かしこ～い」「する～い」とか言われていますが、本人からすれば、生きていくための術なのです。このような状態になると、野生ではおそらく生きてはいけなんでしょう。

先ほども書いた通り、野生から来ることはほぼありませんが、動物園で暮らす以上、動物たちには、「ここで暮らせて幸せだった」と感じられる環境を用意し、1日でも長く生きてほしいと思っています。

飼育員 おおうち

ほくらのうみだより vol.5

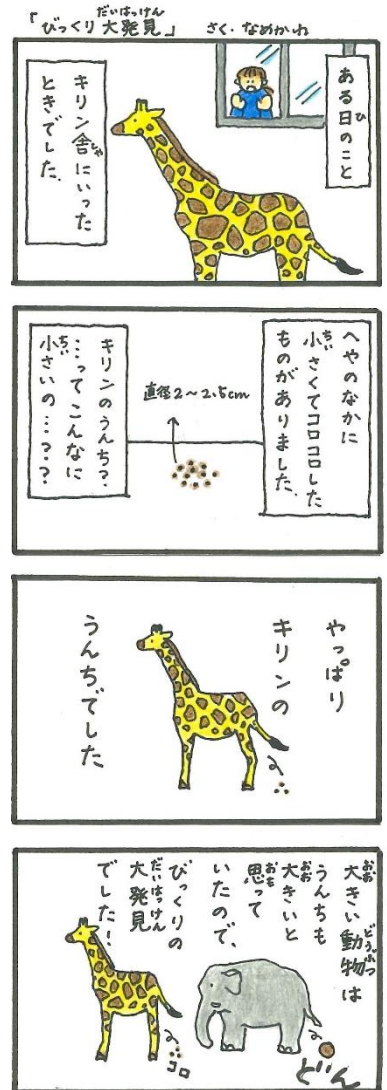
2016年からどうぶつ資料館で始まった、日立の海で捕まえた生き物を展示する日本一小さな水族館「ほくらのうみ」から、オモシロ情報をお届けします！今回はスゴ技を持つエビのお話です！



「インテッポウエビ」
エビの仲間、石の隙間や砂に穴を掘って暮らします。大きなハサミを鳴らして威嚇し、その衝撃波で相手を気絶させることもできる。



夜の海で生き物探しをしていた時に、ザリガニに似た小さなエビを見つけました。よく見ると片方のハサミだけがとても大きいのに気が付きました。
ほくらのうみに入れようとバケツに入れたところ、パチンコパチンと音が聞こえてきました。なんだろうと調べてみると、大きなハサミで音を出していることがわかりました。



12月の予定

新二ホンザル舎をのぞいてみよう：12月6日（日）
クリスマスごちそう大作戦：12月19日（土）・20日（日）
詳細はかみね動物園ホームページ <http://www.city.hitachi.lg.jp/zoo/>
または 0294(22)5586 までお問い合わせください

園長への手紙傑作選！！ #3

どうぶつ資料館で募集している『園長への手紙』。多くの手紙の中から一部をご紹介します！！

Q. アメリカ在住の者です。アメリカのロサンゼルス動物園よりも子ども目線で体験型のかみね動物園、とても楽しめました。来る度に改良が進んでいて前回と違った楽しみ方ができ、ワクワクします。今後も期待しています。

ロサンゼルス 2児の母より



～生江園長～

はるばるロスからお越し頂きありがとうございました。
私もアメリカの動物園は幾つか訪れましたがスケールの大きさに打ちひしがれて戻ってきます。（この間もサンディエゴZooに行ってきました）でもその度に小さくてもかみねにしか表現できないものを……との思いを強く持つようになりました。